

## 令和2年度第2回 名張市地域公共交通連携協議会 議事概要

日時 令和2年11月16日（月）

午後1時30分より

場所 名張市役所 庁議室

出席者：（敬称略）

### （1）委員

室谷 芳彦 （美旗地域コミュニティバス運営審議会 会長）  
古谷 久人 （薦原コミュニティバス運営委員会 会長）  
福本 房生 （ほっとバス錦運営協議会 会長）  
前川 尚三 （緑が丘コミュニティバス運営協議会 会長）  
杉本 公也 （国津コミュニティバスあららぎ号運行協議会 会長）  
作田 久 （代理出席、三重交通株式会社伊賀営業所 係長）  
川瀬 和也 （株式会社メイハン 専務取締役）  
谷本 浩司 （名張市都市整備部 部長）

### （2）オブザーバー

中平 恭之 （近畿大学工業高等専門学校 准教授）  
鈴木 博行 （中部運輸局三重運輸支局首席運輸企画専門官）  
伊藤 成美 （中部運輸局三重運輸支局運輸企画専門官）  
福田 富彦 （薦原コミュニティバス運営委員会）  
三瀬 幸綱 （緑が丘コミュニティバス運営協議会）  
島田 光夫 （美旗地域コミュニティバス運営審議会）  
藪井 喜己 （国津コミュニティバスあららぎ号運行協議会）

### （3）事務局

都市整備部都市計画室4名

## 1. 開会

## 2. 議事

（1）令和元年度コミュニティバスの事業評価について

（2）令和2年度上半期コミュニティバス運行状況報告及び評価について

事務局 それでは、議事の1つ目と2つ目について合わせてご説明いたします。お手元の資料はそれぞれ資料1、資料2をご覧くださいなのですが、まずコミュニティバスの事業評価につきましては、前回の連携協議会において自己評価等をご発表いただいた内容のものです。各コミュニティバスごとに事業評価シートを整えておきまして、前回総合自己評価、地域公共交通連携協議会での意見をいただきながらまとめさせていただいたところですが、それを地域公共交通会議でも報告をさせていただきまして、そちらの方でのご意見をいただきました。それを各コミュニティバスにお返しをさせていただきましてこれらの意見をふまえた対応とい

うことで記載をいただいているところです。それから、2点目令和2年度上半期コミュニティバス運行状況報告及び評価ですが、資料2で例年この時期に開催しております連携協議会において上半期における利用者や運賃収入の状況、過去からの推移、今年度の上期における状況について資料としてまとめさせていただきました。それを各コミュニティバス運営協議会にお送りしまして上半期における運行主体の自己評価としてご記入いただいたものをまとめさせていただきます。これらにつきまして、それぞれのコミュニティバスの運営主体からまずは事業評価シートの上記をふまえた対応についてご発表いただくとともに、上半期におけるコミュニティバス運行状況について資料を簡単にご説明いただきながら自己評価をご発表いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。順番といたしましては、資料の順でナッキー号、あららぎ号は事務局の方から発表し、その後、ほっとバス錦、コモコモ号、みどり号、はたっこ号の順でご発表いただければと思います。

#### <ナッキー号>

事務局 8月に書面で開催いたしました公共交通会議の意見として、ナッキー号に対しては車両の更新について、大型化の際には高齢者に配慮し、できるだけ座席数が多く段差の少ない車両にされたい。また、三重交通の保有車両を使用するのであればICカードの利用も可能になるのではないか、というご意見をいただきました。それに対して上記をふまえた対応といたしまして、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策のため、現在ナッキー号は中型の車両で運行しております。今後車両更新のタイミングで改めて周知などに努めたいと考えております。また、市街地循環バスとして他の公共交通との乗継利便性の向上など引き続き利用環境が改善されるよう検討を進めていきたいと考えております。続きまして、資料2のナッキー号上半期（4～9月）の利用状況をご覧ください。まず、利用状況の概況ですが、令和2年度上半期の利用者数は21,227人でした。1日平均にしますと174人という結果になりました。運行主体の自己評価といたしまして、上半期の利用者数は、新型コロナウイルスの影響で前年度比5,160人減少しており、過去最低の実績となりました。感染防止対策としまして、ナッキー号では車両の大型化、運転席付近のビニールカーテン設置、車内抗菌加工、消毒、換気等を三重交通に実施いただいています。9月の利用者数は前年同月の約80%となっており、徐々に利用者が戻りつつあるという状況の中で、これから冬になりますが公共交通の利用促進と感染拡大防止の両立をしながら利用者数の回復に努めていけたらと考えています。また、予定しております車両の大型化に向け準備を進めていくとともに、他の公共交通機関との連携を一層強化し、乗継の利便性向上に向けた取組を進めていきたいと考えております。

#### <あららぎ号>

事務局 公共交通会議の意見といたしまして、高齢化に伴い、バス停まで行くのが困難な方の増加が見込まれる中、フリー乗降やデマンド型交通、ドアツードアの運行の検討も望まれる。また、見直しから実施までの期間が短く、スケジュール的に実現が可能なのかというご意見をいただきました。それをふまえた対応といたしまして、地域住民が減少し、高齢化が進んでいる中、公共交通として利用者の利便性を確保するとともに、より効率的な運行になるように見直しを進めていきます。また、将来的には別の運行形態も視野に入れ検討を進めていきたい

というふうに考えております。続きまして上半期の利用状況ですが、概況といたしまして利用者数の合計は978人、1日平均の利用者数は8人になりました。運行主体の自己評価といたしまして、上半期の利用者数は昨年度より微増しており、新型コロナウイルスの影響はあまり見られないという結果になりました。ですが、利用者が限定される中で有料の利用者数は年々減少し、平成30年からは運賃免除利用者数の割合が有料を上回っている状況です。現在、路線等の見直しを進めているところで、国津地域住民の利便性の向上と効率的な運行を両立できるよう、引き続き検討を進めていきたいと考えております。

#### <ほっとバス錦>

委員 昨年度予期せぬアクシデントで大きい岩が道路をふさいで、その除去作業が非常に長くかかりました。それに伴う影響は大きく、乗車人数、運賃収入ともに減った訳でございます。区民の皆さんのニーズに合わせ大型商業施設ビバホームまで路線を延長し、増収を図りましたが、運転手によると毎日何人かは乗ってくれているというかたちで効果はありますが、それ以上に今まで乗っていただいていた方が、コロナ禍による外出自粛で非常に出かけづらく特に地域の行事なども中止していますので、出にくいところです。また、地域によって行っていた全員がそろって外出することも自粛のため中止となり、たいへん厳しい状況になっております。運賃免除利用者の数はさほど変わっていませんが、本来乗っていた方の回数が減ったり、高齢化で外出しにくくなった方など今まで乗っていただいていた方が乗れなくなりました。それに替わって新しい人が乗ってくれたらうまくバトンタッチできるのですが、運転手と話していますともう少ししたら免許返納してまた乗ってくれるから心配するなということもありましたが、確かに乗っていただく、または必要とする方の絶対数が限りなく減っています。地域をあげて補填策をしなければいけません、こういった時期ですので様子を見て皆さんに外出してもらうように検討していきたいと思っております。昨今第3波と言われている中非常に苦しい状況の中、もう少し様子見ながらと思っております。令和2年度は非常に厳しいかなというかたちでございます。以上でございます。

#### <コモコモ号>

オザバー 元年度の公共交通会議の意見としまして、平成30年度に利用者が落ち込み、昨年度も回復していないと。30年度は近鉄プラザが閉店した年で、その時から落ち込んでいるということで地域住民の利用を促す取組を強化されたいというご意見でした。地域としましては買い物不便になったということで考えてはおりますが、次回乗込み調査時に確認します。運行状況等をセンター便りに掲載して多くの方の利用を促していきたいと思っております。令和2年度の上半期につきまして、利用者数の推移、総利用者は1,295人で1日平均10.6人となりいずれも前年から下がっております。各バス同じだと思いますが、コロナ禍というのが効いてるのかなと思っております。特に3月から5月が前年比55%程度と減少が著しい。その後は80%程度には回復しておりますが前年には及ばないという状況でございます。一旦コミバス以外での移動手段で用を済ますことが出来れば、なかなかバスに戻りにくいのかなと、心配しています。地域への広報も実施していますが全く反応がないということもございまして、今さらに運行そのものの見直し、具体的には桔梗が丘からの帰り便の増便、逆に向かう便を減便してはどうかと検討しようかと考えております。以上です。

<みどり号>

委員 駅前の商業施設が閉店し、その後復旧して3年間くらい黒字で剰余金が359,273円あります。時刻変更をしたり費用がかさみますが費用を減らしたりいろいろなことをしました。近鉄プラザのぎゅーとらが10月31日で閉店しました。駅前是非常に寂しい状況に陥っています。今度ぎゅーとらがいきいき前に21日にオープンしますので、そこに停留所を増設します。お金がかかりますがないよりあった方がいいかなと。いきいきとの間は30m位しかありませんが、ぎゅーとらとも相談してお互いにwinwinの関係でいこうということで停留所を設置します。次に、令和2年度上半期について、COVID-19、コロナ禍で移動制限があり、利用者が減少しました。年間を通じての乗降調査、みどり号通信を偶数月の1日に発行して利用者とのコミュニケーションをとっています。停留所美化のため季節の花寄せ植えを実施し、つい最近も花を入れ替えました。従来からの食事会、ハイキング、バスの乗り方教室は、毎年していたのですが、密になるためできませんでした。紅葉の季節に行こうと思っていますがなかなか踏ん切りがつかません。この状況はしばらく続くものと思います。コロナがいつ終息するか見通しが立ちませんので、この際コミュニティバスというシステム自体が本当にいいのかを見直すための絶好の機会だと思っています。赤字を出していたら話にならないので、システム全体を見直して300万円の税金を使うわけですので、これを使ってもっと方法はないかと今考えているところです。

<はたっこ号>

オブザーバー 元年度までは毎年増加傾向で地域に根付いているんだと自分で満足していましたが、2年度では昨年度に比べると、利用人数は約38%減少しており、今まで経験したことの無いような落ち込みです。先程少し数字が戻っているという地区もありましたが、美旗はまだ戻るころまでいきません。コロナの影響が1番大きいと思いますが、さらに桔梗が丘駅のぎゅーとらが店舗移転になり、さらに減少すると思われます。このまま放っておくと買い物弱者が必ず発生し、利用者の方から買い物に特化したコミュニティバスを検討していただけないかという意見も頂いております。利便性を考え、先日事務局と名張警察の方で春先から計画しておりましたオークワへの乗り入れを今年度中に行います。それでもあまり変わらないかもしれませんが、たとえわずかでも利便性を図るということで、私どもはそういうふうと考えております。以上です。

会長 ありがとうございます。コロナの影響がかなり出ているようで、また環境の変化もあり下り坂という声が聞こえています。各委員様から今の発表、自己評価についてご意見等を伺いたいと思います。中平先生いかがでしょうか。

オブザーバー 今はコロナの影響があり利用者数が減っているところがありますが、利用されている方はいないわけではありません。なぜかという利用しなければいけない人と言うのがこの数字に表れているところだと思います。ですので、それ以上の人を確保しようというのであれば何らかの利益が無ければ当然バスは利用しないわけなので、これまでのように、特に近鉄プラザのぎゅーとらが撤退されるというのは大きな影響があると思いますし、経済的なインパクト

トはバスにも結構出てきます。先程発表の中でもありましたが、一旦減った需要と言うのはなかなか戻ってこないというのはいろんなところで言われていることです。コロナで減ったお客さんが元の数まで戻ってくるというのは難しいかもしれません。ただ、そのあたりコミュニティバス単体で考えるのではなく、三重交通や近鉄、近鉄は減便されるのではないかという報道がありましたが、そのあたりの状況も見ながら柔軟に時刻表なども考えていかなければいけないのかなと思います。先ほどもありましたが、バスにこだわる必要はないので、何か別の輸送方法でいいのがあれば、特にあらざ号は以前からバスである必要はないと言われていて、他の輸送方法で考えてもいいところなので、先ほどもあったようにいい機会かもしれませんので、そのあたりも検討していけばいいのかなと思っています。以上です。

会 長 他にご意見ございませんか。乗車率を増やす方法は簡単で、便数を増やしたらいいです。便数を増やせないからこういうかたちになって行ってジリ貧になっていっている。だから買い物に特化をするというのでも行くのはいいけど帰るのにすごく時間がかかってまわりに何もなくておばあちゃんが待っているとか、便数が多いと乗って行けるとか、だから限られた資源の中でどれだけ便数を増やせるかというところに限られてくると考えられますね。他にございませんか。とにかくじっとコロナが通過するのを待つしかない。完全には通過しないかもしれませんので、これが普通と考えて永続的にどうやっていくかということも考えていく1つのステップになると思います。その件につきましては何かいい案があれば動かしていくというのも視野に入れて名張のコミュニティバスの在り方というのも考えたいと思います。ご意見がないようですので一旦締めさせていただきます。続きまして(3)の補助金の増額について事務局からよろしくお願いします。

### (3) 令和2年度地域コミュニティ交通運営事業費補助金の増額について

(事務局より資料に基づき説明)

会 長 バスを回していただいているところへも極力増額分を回してあげてくださいという内容でございましたこれで議事は終わりますが、何かご質問等ございますか。

オブザーバー 具体的には各バスの任意ということですか。それともうちだと三重交通ですが三重交通から何らかの請求をいただくということですか。

事務局 これにつきましては任意ですので、明確にいくらというところは言えないですが。

会 長 基本的にいくつかあるバスで業者にだいたい辛抱してもらっているところがあるかと思いますが、はたっこ号の場合は年々値上げして行ってそれなりに対応していただいています。他のところについてはそれが見えないのでこれを機に、ただ一度上げれば次の年度は下げられませんが次の年はこの25万円がありませんので、そのへん蓄えにするとか地域づくり組織からお金をいただいている部分があります。それをできれば減額するという事で少しだけ財布が膨らんだので少し気持ちが楽になるかなと思います。少しずつ分けたらどうかなどは全部体質が違いますので、任意にさせていただけたら結構かと思います。その他にないようでしたら、議事は全て終了しました。ありがとうございました。それではその他の事項事務局の方からお願いします。

### 3. その他

#### 諸連絡

(その他の連絡事項について、事務局より説明)

#### 地域公共交通セミナーについて

(三重運輸支局より案内)

#### 参考資料について

(緑が丘コミュニティバス運営協議会前川会長より説明)

会 長 ありがとうございました。これにて連携協議会を閉会いたします。